

## 県産材製材品の表面線量調査の結果について

### 1 目的

県内の製材工場において、製材品の表面放射線量を定期的に測定し、現在出荷されている県産材の安全を確認する。

### 2 調査時期 平成27年2月10日～平成27年3月24日

### 3 調査事業者数

対象工場聞き取り調査の結果、現在県産材を製材、出荷している133事業者について調査した。

### 4 調査方法（製材品の表面線量調査）

各調査工場の出荷製品について、柱、梁、板材等、品目毎に3検体以上を抽出し、製材品の表面線量（単位cpm）を測定した。

#### 【調査事業者の内訳】

区分	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	合計
事業者数	17	29	19	19	9	11	29	133
検体数(本)	106	219	151	108	51	73	287	995

### 5 調査結果

現在県産材が出荷されている133事業者における表面線量調査の結果、表面線量の最大値は21cpm（0.001 $\mu$ Sv/h\*に相当）であった。

21cpmの測定値について、放射線防護に詳しい、国立大学法人長崎大学 原爆後障害医療研究所放射線リスク制御部門 放射線生物・防護学分野 松田尚樹教授及び 防衛大学校応用科学群 応用物理学科 高田真志教授に確認したところ、環境や健康への影響はないとの評価が得られた。

※参考	震災前の福島市の空間線量	(H22.2.16)	0.04	$\mu$ Sv/h
	東京都新宿区における空間線量	(H26.1.28)	0.035	$\mu$ SV/h

#### 【調査結果内訳】

区分	表面線量（cpm）				合計
	未検出	～20	～40	40以上	
事業者数	49	82	2	0	133
検体数（本）	701	292	2	0	995

最大値：21cpm
最小値：0cpm
平均値：2cpm

## 6 現在までの調査結果について

平成23年12月、平成24年3月、6月、9月、12月、平成25年3月、6月、9月、12月、平成26年3月、6月、9月、12月に調査を実施した。(計13回)

区分	調査時期	工場数	検体数	表面線量の最大値 (cpm)	備考
第1回	H23. 11. 10 ~12. 7	31	544	50	県内の主要な工場について実施した。
第2回	H24. 1. 25 ~3. 8	49	321	92	線量の高い県北、相双、県中の一部地域において稼働している全ての工場を実施した。
第3回	H24. 6. 4 ~7. 24	135	1,058	61	県産材を製材出荷している全ての工場を実施した。
第4回	H24. 9. 3 ~11. 6	156	1,224	51	県産材を製材出荷している全ての工場を実施した。
第5回	H24. 11. 22 ~H25. 2. 4	135	1,177	31	県産材を製材出荷している全ての工場を実施した。
第6回	H25. 3. 1~ H25. 5. 31	121	1,076	35	県産材を製材出荷している全ての工場を実施した。
第7回	H25. 5. 27~ H25. 7. 19	153	1,301	24	県産材を製材出荷している全ての工場を実施した。
第8回	H25. 8. 28~ H25. 10. 30	134	1,124	25	県産材を製材出荷している全ての工場を実施した。
第9回	H25. 11. 26 ~H26. 1. 24	132	1,097	28	県産材を製材出荷している全ての工場を実施した。
第10回	H26. 2. 20~ H26. 3. 26	133	1,078	24	県産材を製材出荷している全ての工場を実施した。
第11回	H26. 5. 26~ H26. 6. 30	144	1,071	28	県産材を製材出荷している全ての工場を実施した。
第12回	H26. 8. 28~ H26. 10. 2	146	1,035	22	県産材を製材出荷している全ての工場を実施した。
第13回	H26. 11. 17~ H26. 12. 22	134	906	28	県産材を製材出荷している全ての工場を実施した。
今回調査	H27. 2. 10~ H27. 3. 24	133	955	21	県産材を製材出荷している全ての工場を実施した。

## 7 今後の対応

今回と同様の調査を定期的（3ヶ月に1回）に行い、製材品の安全を確認する。

<参考> cpm（測定値）から $\mu\text{Sv/h}$ への換算表

計測器の指示値 (バックグラウンドを差し引いた値) (cpm)	$\mu\text{Sv/h}$
100	0.0033

独立行政法人：産業技術総合研究所作成